

日本赤十字社和歌山医療センター 医療連携だより

冬号
No. 76



和歌山医療センター

和歌山市小松原通四丁目20番地

TEL: 0120-965-582 (医療連携課)

(発行責任者) 管理局長 宮本 明典

FAX: 0120-937-510 (医療連携課)

e-mail: renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



新年のご挨拶

院長 平岡 真寛



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症（以下：COVID-19）に明け暮れた年でした。新たな生活様式が求められるなど社会全体を揺るがしたCOVID-19に直接あるいは間接的に関与されたネットワーク会員の先生方にとりまして心労の多い年であったと存じます。診療控えによる経営収支の悪化に苦しんだ年でもありました。

日本赤十字社和歌山医療センター（以下：当センター）は、第1種2種感染症指定病院として、和歌山県、和歌山市（保健所）と連携しながら、このCOVID-19に正面から取り組みました。外来診療においては発熱外来を設置し、救急では感染可能性の有無に関わらず全例応需を堅持しました。また、入院診療においては、一般病床、感染症病床、ICU病床、分娩室、新生児室とあらゆる患者に対応できる病床をCOVID-19用に整備し、軽症から中程度、重症まで、数多くの入院患者の診療を行いました。中等症以上の患者診療では和歌山での中核機能を担い、和歌山県のCOVID-19対策に貢献できたことは、当センターの誇りであります。

COVID-19の猛威は凄まじく、昨年12月10日の時点で、世界で6800万人超の感染者、156万人超の死亡者を数えています。国内において、第一波、第二波は収束されましたが、年末に到来した第三波は、重症者の急激な増加も相まって医療崩壊が現実味を帯びる危機的状況に陥っています。ワクチンが実用化され、日本でも春頃には接種が開始されるようですが、その効果が顕在化し終息に向かうには、なお1年以上必要とされています。医療基盤が脆弱な和歌山県において医療崩壊を起こさないように、行政、重点医療機関等と連携してCOVID-19対策に真摯に取り組むたいと存じます。

With & Post コロナ時代においても地域医療構

想が国の医療政策の基本であることに変わりはありません。当センターの役割は、「高度急性期医療の提供」であり、本医療により一層注力した病院へ進化させる必要があります。

本年は、高度急性期医療の代表であるがんと心疾患の機能強化を図る年と位置付けています。まず、1月12日にがんセンターが発足します。高いがん診療機能が評価され、厚生労働省からがん診療連携拠点病院「高度型」に指定されていますが、がんセンター開設により、がん診療機能を集約化させ、最新のがん医療を継続して提供する体制を整備したいと思います。がんセンターのキャッチフレーズ「ユニット診療による最善のがん治療をあなたに」が示すように、14の「臓器別がんユニット」を設置し、先進的ながん医療を実施している専門医が英知を結集して、個々の患者さんに合った最善の治療を提供します。総合病院のメリットを生かしたがん医療の提供も本がんセンターの特長です。急増している高齢者のがん患者では、心疾患、糖尿病などの併存疾患を有する患者が少なくありません。当センターでは、循環器内科、糖尿病内分泌内科などの専門医との連携が密に行われており、併存疾患を有するがん患者さんにも高度ながん医療が実施できます。心疾患については、昨年開設したハイブリット手術室にて、カテーテルによる大動脈弁置換術（TAVI）を開始します。大動脈弁疾患を抱える高齢者には大きな福音になることを願っています。

本年も厳しい医療環境が待ち受けていると思われませんが、昨年同様にCOVID-19と高度急性期医療の両立を目指す所存です。いずれもネットワーク会員の先生方との密な連携が欠かせません。ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

就任のご挨拶



乳腺外科部長
松谷 泰 男

この度2020年11月1日付で乳腺外科部長を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。私は奈良県天理市に生まれ、同地で育ちました。海のない県で育った身としては、当地和歌山での勤務は心が浮き浮きします。

昭和63年（1988年）大阪医科大学を卒業後、京都大学外科学教室に入局し、京都大学医学部付属病院で1年間基礎研修後、京都市立病院外科にて研修を続けました。

ここでは、厳しい外科部長に鍛えられ、技術面のみならず精神面でも私の医師としての基礎を作っていたいだと思っております。また、病院診療にとどまらず、最後の1年間は京都市伏見保健所（兼務）に出向し、地域の保健行政の一端を担わせて頂いた事は、今日まで得難い経験として生かされています。

当時の京都大学外科学教室では研修方針として、大規模病院と小規模病院の2つを経験した上で帰学するように考えられており、私も京都市立病院での3年余りの研修ののち、香川県坂出市の大樹会回生病院に勤務致しました。地域の救急疾患を率先して受け入れている病院で、外科医は3人でしたので文字通り夜討ち朝駆けの毎日でしたが、そうであるが故に出来る時に休養して英気を養うことの重要性を教えて頂きました。また保健所勤務中には、結核関連疾患が低栄養状態では意外と簡単に発症するというケースを幾度も経験し、臨床での栄養の重要性を認識することができました。

以上のような経験を経て研究生活に入りました。消化器外科学教室の中、乳腺の研究室に縁があり、4年間の研究を経て2002年に学位を取得しました。

研究終了後は京都桂病院消化器センター外科に赴任し、消化器外科一般を担当していましたが、乳腺疾患への興味が深まり、乳腺担当となると同時に、栄養への興味から栄養サポートチーム（NST）の立ち上げを行い、現在の基礎が形づくられました。

乳腺診療、NSTともに、医師のみで治療等の方針を立てることはできても、実践となると様々な職種の方々のサポートがないとやって行けません。また、方針を立てるうえで、患者さんの情報、様々な医療資源とその利用方法などは各々の職種から得るのが一番良い方策です。結局、医師1人では何もできないこと、できないことは各々の部門の専門職にお願いするしかないということに気づかされ、様々な職種とのチーム医療により診療の充実を図る事が、私の現在の基本姿勢となりました。この事は天理よろづ相談所病院に異動になった後、その後また京都桂病院に縁があり勤務した時も変わりなく引き継がれ、現在に至っています。また、当センター前乳腺外科部長の芳林の下行われてきた、乳腺外科診療の基本方針とも方向を一にしています。

医療は今後、在宅診療環境の充実による疾病の悪化防止、生活環境改善による疾患の発症防止に向かいます。私達は病院に来られる患者さんをただ真摯に診るだけではなく、在宅環境について患者さんのニーズや精神面にも気を配るとともに、私達の経験や知識を地域の先生方や住民の方々に還元し、より早期に乳癌を発見できる機会が得られるよう努力を続ける必要があります。そのために今後、地域の先生方との連携や、市民講座等を通じた地域の方々との交流を今までも増して深めてゆく事が必要となります。

一方で、私達医療従事者も、子育て等個々のライフステージに応じた生活を維持しながら日々の診療ができるよう、職場の環境を整えてゆく必要があります。

このような状況の下、患者さん、医療スタッフを含めた皆の笑いが絶えないような職場づくりを理想として、頑張ってくださいと思います。

非力故、多々ご迷惑をお掛けするかとありますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



がんセンターオープンのお知らせ

～ユニット診療による最善のがん治療をあなたに～

2021年1月12日、本館2階に「日赤がんセンター」がオープンし、診療を開始致しました。がんに関わるほとんど全ての診療部門、支援部門が集結しています。

当センターが目指すがん診療は、検診によるがんの発見、最新技術を駆使した診断、診療科の垣根を越えた集学的治療、治療途中での救急体制、緩和治療、社会復帰への支援といった途切れのない医療を基本姿勢としています。

がんセンターでは、個々の患者さんに合った最善の医療を提供するために、14の臓器別ユニットを設立し、画像、病理などで診断を専門とする医師、手術・放射線治療・薬物療法・内視鏡治療などの治療を専門とする医師、看護師、薬剤師などの専門職種が加わりチームを結成し、総合病院のメリットを活かした最善の医療を提供します。

詳しくは、当センターホームページ <https://www.wakayama-med.jrc.or.jp> をご参照ください。



腫瘍内科部からのお知らせ

腫瘍内科部長 杉田 孝和

現在がんは、日本における死因の第1位であり、二人に一人は生涯に罹患すると言われるほど身近な病気です。このがんという病気に対して臓器横断的に薬物療法を行う診療科として腫瘍内科が開設されました。がんの治療には、がんの原発部位によってそれぞれ標準治療と呼ばれる、効果と安全性が最も確立している治療法が存在します。各診療科と協力しながら、各臓器における標準治療を多くの患者さんに安全に提供するというのが腫瘍内科の役割の一つです。一方で標準治療施行後に進行が確認された場合や、非常に稀ながんで、標準治療が存在しない場合、原発がわからないようながんの診療も問題となってきました。このように従来の枠組みでは診療しづらい患者さんに、遺伝子パネル検査も考慮し最善の方法を提案するというのも腫瘍内科の重要な役割と考えています。

この度がんセンター設立に伴い、地域の先生方からのご紹介にも対応できるように体制を整えましたので、診断や治療に難渋する患者さまがいらっしゃいましたら、是非ご紹介いただければと存じます。

【診察日】 毎週 木曜日（完全予約制）

【診療科】 腫瘍内科（原発不明ユニット）

ご予約は、予約センター（TEL 0120-936-385 FAX 0120-937-510）までお願いします。

診察待ち状況(時間)連絡サービス(携帯メールサービス)開始のお知らせ

当サービスは、診察までの待ち時間を有効に活用して頂くため、メールアドレスを登録された患者さん・ご家族さんの携帯やスマートフォンへ、診察順が近いことをメールでお知らせするサービスです。

またおおよその待ち順番が確認できる専用 Web サイト情報 (URL) も配信されます。

(当サービス利用には、院内に設置されています「登録端末」で登録を行って頂く必要があります。)



予約センターの運用変更について

予約センターでは、地域医療機関様と当センターをつなぐ窓口として、初診診察予約、検査予約、セカンドオピニオン予約を行っています。

昨年までは対象患者様を、全く初めての方及び当該科最終受診日から1年以上経過された方となっており、対象外の紹介患者様の予約が煩雑となっていました。

今回、紹介状のある患者様につきましては、全て予約センターで対応できるよう運用を変更致しました。



ただし、次回予約日が決まっている方の診察日変更等は、従来通り各診療科での対応となります。予約に関して、ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。

**【お問い合わせ先】 医療連携課 電話 0120-965-582
FAX 0120-937-510**

令和2年度診療科別合同セミナー・講演会等実施一覧

日時	診療科	会合・講演会名	参加人数 (合計)
10月22日(木)	第一・第二呼吸器内科	和歌山呼吸器診療勉強会(リモート)	41名
10月31日(土)	脳神経外科	令和2年度第2回脳卒中地域連携バス情報交換会	45名
11月5日(木)	乳腺外科	第13回 Breast Cancer Network Construction Seminar	11名
11月19日(木)	整形外科	令和2年度第1回大規模地域連携バス合同カンファレンス(ハイブリッド)	43名
11月19日(木)	第一・第二呼吸器内科	和歌山 Respiratory Seminar(会場開催+リモート)	21名
11月21日(土)	循環器内科	心血管治療WEB連携フォーラム2020(リモート)	17名
12月8日(火)	脳神経外科・脳神経内科 神経救急部	てんかん診療 Up to Date(リモート)	20名
12月10日(木)	循環器内科	和歌山心不全治療WEB懇話会(リモート)	30名
12月10日(木)	第一・第二呼吸器内科	COPD Communications ~地域医療連携による COPDの包括的呼吸ケア~(リモート)	10名
12月11日(金)	第一・第二呼吸器内科	呼吸器疾患カンファレンス(リモート)	20名

就任のお知らせ

12月1日付
産婦人科部 **大西 佑実** (専攻医)
1月1日付
麻酔科部 **齋藤 舞** (医師)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお祈りいたします。

退職のお知らせ

11月30日付
産婦人科部 **松本 彩** (専攻医)
皮膚科部 **村岡 響子** (医師)
12月31日付
外科部 **山口 賢二** (医師)
麻酔科部 **辻本 正聡** (専攻医)

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。